

第4学年国語科学習指導案

児童 2組 男子12名 女子13名 計25名
指導者 田頭千秋

- 1 単元名 調べて発表しよう（光村図書 4年上 かがやき）
教材名 「伝え合う」ということ

2 単元について

(1) 児童について

児童は、3年生までに、身近な話題への興味・関心をもちながら事柄を順序立てて分かりやすく話したり、互いの考えの相違点や共通点に気を付けながら聞き合ったりする学習を行い、4年生での各教科や特別活動等における発表の場面での活用を図ってきた。単元「じゅんじょが分かるように、話したり聞いたりしよう」教材「道あんないをしよう」では、大事なことを選び、相手に分かるように順序良く話すこと、その場に応じた適切な音量や速さで話すこと、大事なことに気を付けて聞くことを学習した。4年生の学習「伝言はまちがえずに」では、口頭で用件を伝達するときの適切な話し方や聞き取りメモの取り方を学習してきた。

また、現在、国語の学習以外にも、帰りの会で「スピーチタイム」というコーナーを設け、話すことの中心を考えて話したり聞いたりする活動を行っている。

この単元の目標に関わる「話すこと・聞くこと」について事前の意識調査をしたところ、結果は次の通りであった。

項目	内容	はい	どちらかというと		いいえ
			はい	いいえ	
言いたいことの中心を伝えるためにどのように話しているか	① 相手に聞こえる声ではっきり話す。	40%	48%	12%	0%
	② わかってほしいことを、ゆっくり、強調して話す。	28%	48%	12%	0%
	③ 初め・中・終わりに区切って話す。	12%	48%	36%	4%
	④ 身振り、手振り、図、指示棒などで指し示すなどをして話す。	32%	36%	28%	4%
	⑤ 相手のうなずきやメモ取りなど反応を見て話す。	32%	44%	16%	8%
	⑥ 相手の顔や目をしっかりと見て、相手に体を向けて話しているか。	48%	32%	12%	8%
相手の発表をどのように聞いているか。	ア 何が言いたいのか、話の中心は何なのかに気を付ける。	44%	44%	12%	0%
	イ 大事なことをメモしながら聞く。	24%	56%	20%	0%
	ウ うなずく、目や顔を見るなど反応しながら聞く。	52%	36%	12%	0%
	エ 自分との相違点や共通点を考えながら聞く。	44%	36%	20%	0%
	オ 質問や感想、意見が言えるように準備して聞く。	36%	44%	16%	4%

調査の結果から、相手の顔や目をしっかり見て話している児童の割合は8割と高く、普段の学習でも意識はしているようである。この単元の学習では、より効果的に伝わるように資料も準備し活用するので、それを示しながらでもしっかり相手を見て話すようにさせたい。また、相手の発表を聞く方については、質問や感想、意見が言えるようにして聞く面がほかに比べると割合が低くなっている。これは、自分との相違点や共通点を考えながら聞くことにも関係があるので、発表会の際には意識させていきたい。

これらのことから、今回の学習では、聞き手によく伝わる発表のしかたとしてスピーチメモの書き方を工夫する、相手意識をもつ、よく聞いて感想を交流し、考えを深めるというような力を付け、今後の学習や日常生活に生かせるようにすることが大切であると考えます。

(2) 教材について

本教材は、資料「手と心で読む」をきっかけに課題を持ち、調べたことを原稿にまとめ、それを基に発表の仕方を工夫しながら練習し、発表会を行う構成になっている。

3、4年生の「話すこと・聞くこと」の目標は、「相手や目的に応じ、調べた事などについて筋道を立てて話すことや話の中心に気を付けて聞くことができるようにするとともに、進んで話し合おうとする態度を育てる。」である。

本単元のねらいは、<資料>「手と心で読む」をきっかけにして、点字や手話などの伝え合いの方法に興味を持ち、自分の課題を立てて調べ発表し合うとともに、発表を通じた交流によって更に知識を得、新たに自分の考えを持ちながら、ものの見方・考え方を広げることである。また、主たる指導事項は、「伝えたいことを選び、自分の考えが分かるように筋道を立てて、相手や目的に応じた適切な言葉遣いや話し方で話すこと」(A(1)イ、ウ)、「話の中心に気を付けて聞き、自分の感想をまとめること」(A(1)エ)、「自分なりの課題を持つために、「手と心で読む」を読むこと」(C(1)カ)、「グループ内、クラス内など状況に応じて適切な音量や速さで話すこと」(A(1)ウ)、「相手やその場の状況に応じて丁寧な言葉で話すこと」(A(1)ウ)である。

つまり、話の中心からそれないような組み立てを考えて話す内容を明確にし、相手を意識して伝え内容をしっかり話せる力、話の中心に気を付けて聞く力を育てるとともに、ものの見方・考え方を広げるための基礎づくりとしての大切な単元であると考ええる。

これらのことから、本教材では、発表を意識した話し方・聞き方を考えさせるため、伝えたい内容を明確にし聞き手に分かりやすい構成を考えて原稿を作成すること、それをもとにしてスピーチをする練習をすること、話の中心に気を付け自分の考えも持ちながら聞くこと等の活動を段階的に行い、単元のねらいに迫ろうと考える。また、学習を進める際は、総合的な学習の時間の単元で行うキャップハンディ体験等を関連させながら課題設定や調べ学習を進め、国語科の学習として、話すこと・聞くことに関する内容に重点を置き学習を進めるようにしたい。

(3) 指導に当たって

つかむ段階では、国語科の時間の外に総合的な学習の時間の活動（「めざせ心のバリアフリー」）も活用しながら、伝えたい、話したい気持ちになる体験を十分に味わわせ、調べ学習や発表会への意欲を喚起させるように進める。「伝え合う」ことを視点にして、体験した活動の中から必要な材料を抽出し主題からずれないように課題を立てて調べ学習を進めていけるようにしたい。そのため、導入部では、<資料>「手と心で読む」の読み取りから進め、国語科の学習として、相手に分かりやすく伝えるための発表の仕方を中心に学習を進めていくことを確認しておく。

ふかめる段階では、発表の場面を想定し話すことについて、伝えたい内容を一度原稿に起こす作業も行わせながら、相手に分かってもらう方法を話型モデル等を活用して考えさせ、図やスピーチメモなど必要最小限の資料を使って話す練習を行わせて相手の反応を確かめながら話せるように学習を進めていきたい。聞くことについては、大事なことを素早くメモをするこれまでの学習を活用させながら、相手の考えと自分の考えを比較して聞けるよう、アドバイスカードに意見欄や感想欄を加えるなどして活用させたい。また、このアドバイスカードや話し方・聞き方の自己評価カードを活用しながら、かかわり合いの場面で円滑に意見交流が行えるように配慮していきたい。また、かかわり合いの場面では、調べた内容を取材選材しまとめていく過程で、より情報を密にするために同系列の課題を持つグループ編成にして取り組ませ、スピーチ練習などでもグループ内でお互いに、相手に分かりやすく伝えるための方法を話し合わせたりアドバイスをし合ったりしながら、発表のためのよりよい話し方を見つけれられるようにしていきたい。

まとめる段階では、更に新たな関心や気付きを持たせるために、ワークショップ形式で発表会を行い、それぞれのグループ同士で発表させ、交流が深まるように配慮して進めたい。

さらに、本単元の学習後、総合的な学習の時間の活動単元「めざせ心のバリアフリー」の活動の中で、本単元の学習を生かすと共に、振り返りの場面で「名人カード」や「話し方聞き方の振り返りカード」等を活用して発表会を深めていこうと考える。

(4) 家庭学習と授業のつながりについて

つかむ	・新出語句、漢字等の意味理解に関する調べ学習。 ・資料教材文の音読学習。
ふかめる	・取材選材の補充学習（資料収集、資料整理 等）。 ・発表原稿作成の補充学習（下書き、実作、推敲や清書 等）。 ・スピーチの補充練習。
まとめる	・感想文や自己評価カード等の整理。

3 単元の目標

(1) 国語への関心・意欲・態度

- 「伝え合う」 ことについて興味を持ち、進んで調べたり、調べたことを相手に分かるように発表したりしようとしている。

(2) 話すこと・聞くこと

- 関心のあることなどから話題を決め、必要な事柄について調べ、要点をメモすることができる。
- ◎ クラスの友達に自分の考えが分かるように筋道を立てて話すことができる。
- ◎ グループ内、クラス内など状況に応じた適切な音量や速さ、丁寧な言葉で話すことができる。
- ◎ 適切な言葉の抑揚や強弱、間の取り方に注意して話すことができる。
- ◎ 話の中心に気を付けて聞き、質問をしたり感想をまとめたりすることができる。
- 友達の発表と自分が調べたことや考えたことを比べて、感想を発表できる。

(3) 読むこと

- 自分なりの課題を持つために、「手と心で読む」を読み取ることができる。

(4) 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- 指示語や接続語が文と文のつながりに果たす役割を理解し、使うことができる。

4 単元の評価規準

ア 国語への 関心・意欲・態度	イ 話す・聞く能力	ウ 読む能力	エ 言語に関する 知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> ・ 「伝え合う」 ことについて興味を持ち、進んで調べたり、調べたことを友だちに分かるように発表したりしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達に調べたことや自分の考えが分かるように筋道立てて話している。 ・ ペアや小グループ、学級全体等の形態に応じ、適切な音量や速さで話している。 ・ 相手やその場の状況に応じて、丁寧な言葉遣いで話している。 ・ 話の中心に気を付けてメモを取るなど話の要点を押さえて聞き、自分の感想をまとめている。 ・ 友だちの発表と自分の調べたことや考えたことを比べて、感想を発表している。 ・ 必要な図や絵、写真などを活用しながら、適切な言葉の抑揚や強弱、間の取り方に注意して話している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題設定のために「手と心で読む」の要点を読んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指示語や接続語の役割を理解し、適切に使っている。

5 学習指導計画（全16時間）

はかかわり合いの場合

過程	時間	学習活動	教師の働きかけ	評価規準（方法）
つかむ	1	<ul style="list-style-type: none"> 「手と心で読む」全文を通読し、学習の見通しを持ったり、初発の感想を交流したりする。 <p>・学習形態はペア。自分の感想と比べながらまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> キーワードが「伝え合う」であることを確認し、日常的にいろいろな方法で伝え合っていることに気づかせる。 <p>・聞く人は自分の感想と比べるように助言する。</p>	イ 「手と心で読む」を読み、初発の感想を話している。 （観察・発言・ノート）
	2 3	<ul style="list-style-type: none"> 「手と心で読む」の内容を読み取り、点字についてわかったこと、もっと調べたいことをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料を読んで新しく知ったことや疑問を中心にノートに書きまとめさせる。 	ア 「手と心で読む」を読み、点字について分かったこと、もっと調べたいことをまとめている。 （観察・発言・ノート）
ふかめる	4	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間の活動で体験したことを基に、調べ伝えたい課題を決め、学習計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りにあるもの、工夫、役割、使い方・使われ方、作られたきっかけ、問題点等を課題のポイントして例示する。 計画表を作成させ、調べる見通しを持たせる。 	ア 学習計画を立てようとしている。 （観察・発言・学習シート等）
	5 6 7	<ul style="list-style-type: none"> 調べる計画に沿って、取材選材を行う。 <p>・学習形態は2,3人の小グループ。交流して考えを分かち合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 調べた結果を持ち寄ることで、お互いに補足したり、修正したりできるようにする。 <p>・相談したり、資料の共有化を図ったりしながら、課題解決が円滑にできるようにする。</p>	ア 関心を深め、課題に沿って必要な資料を集めるなどして、進んで取材をしている。 （観察・記録の様子・発言の様子等）
	8 9 10	<ul style="list-style-type: none"> 伝えたい内容を明確にするため、内容構成を検討した原稿を作成し、検討する。 <p>・学習形態は小グループ。相手に分かりやすく伝えるための内容になっているかアドバイスをしながら交流する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本文「発表しよう」やCDを基に、基本的な組み立てや内容表現を確認して進める。 <p>アドバイスカードを用意し、アドバイスが明確になるようにする。</p>	イ はじめ・中・終わりの簡単な組み立てで原稿を作っている。 （発表原稿） エ 指示語や接続語の役割を理解し、適切に使っている。 （発表原稿、交流の様子）
	11	<ul style="list-style-type: none"> 原稿を基にスピーチメモを作り練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> モデル提示をし、相手の方を見たり、メモを活用したりする工夫点に気づかせる。 	イ 発表原稿からスピーチメモへと工夫している。 （スピーチメモ）
	12	<ul style="list-style-type: none"> 聞き手によく伝わる発表の仕方を考え練習する。 <p>・学習形態は小グループ。発表を聞き合い、相手に分かりやすく伝えるための話し方についてお互いにアドバイスする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> モデル提示をし、よい発表の仕方のポイントに気づかせる。 <p>・アドバイスカードを使って相互評価できるようにする。</p>	イ スピーチメモや資料を基に、相手の反応を意識して話している。 （練習の様子、振り返りカード） イ よい発表のポイントに沿って、友だちにアドバイスしている。 （発言・アドバイスカード）
	13	<ul style="list-style-type: none"> 発表会の方法を確認し、発表準備をする。 <p>・学習形態は小グループ。発表時間内におさまるよう、練習する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 発表の内容や手順を示した発表メニューカードを使い、内容や時間等も検討させる。 <p>・メニューカードに記載した内容を確認させながら、グループ内でよく話し合っって練習させる。</p>	イ 準備が整うよう、自分の考えを積極的に話したり、準備を進めようとしたりしている。（話し合いの様子） イ 相手の考えを受容的に聞いて協力的に準備を進めようとしている。（話し合いの様子）
まとめる	14	<ul style="list-style-type: none"> 発表会を開く。 <p>・学習形態は小グループによる発表形式。実態に応じ、全体発表型やワークショップ型等にして実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 発表会後は、発表の振り返りを行い、交流した内容についての感想もまとめさせる。 <p>・メニューカードに、発表時の話し方聞き方の自己評価項目も入れ、発表会後の振り返りで活用させる。</p>	イ 相手に考えが伝わるように、資料提示の工夫をしたり、相手の反応や状況に応じて適切な音量や速さ、視線・言葉遣いで話している。 （発表の様子、自己評価の記述）
	15	<ul style="list-style-type: none"> 発表のまとめをする。 		イ 発表の様子や内容をメモを取りながら聞き、話し手に呼応しながら受容的な態度で発表会に参加している。 （発表の様子、振り返りカードへの記述）
	16	<ul style="list-style-type: none"> 伝え合うことについて考えを持ち、意見交流をする。 <p>・学習形態は学習班（4,5人）。 ・バズセッション形式で実施。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 実際に自分たちで調べたり発表したり、友だちの発表を聞いたりして、自分の考えの変容や深まりを引き出させる。 <p>・グループ内で考えを交流することで、考え方を深められるようにする。 ・様々な発表の形があることについても触れる。</p>	イ 友達の考えと自分の考えを比べながら、話したり聞いたりしている。 （話し合いの様子、ノートへの記述）

第4学年 国語科学習指導案

児童 1組 男子14名 女子11名 計25名
 指導者 斉藤 哲

1 単元名 調べて発表しよう (光村図書 4年上 かがやき)
 教材名 「伝え合う」ということ

2 単元について

(1) 児童について

児童は、3年生までに、「話すこと・聞くこと」の学習を通し、身近な話題への興味・関心を持ちながら事柄を順序立てて分かりやすく話したり、互いの考えの相違点や共通点を考えながら聞き合ったりする学習を行い、4年生での各教科や特別活動等における発表の場面での活用を図ってきた。4年6月単元、「伝言はまちがえずに」では、口頭で用件を伝えるときの適切な話し方や聞き取りメモの仕方を学び、相手に分かりやすく伝えようとする意識を持ち日常生活の場に生かそうとするようになってきている。4年1学期に実施した総合的な学習の時間の活動における発表場面では、課題別グループがテーマに沿ってまとめた「新聞」をワークショップ形式で紹介する活動も経験した。その際、せっかくまとめた内容なのに新聞を棒読みしてしまったり、緊張感から声が小さくなる、早口になるなどして相手を意識した話し方になっていなかったりし、児童は相手に自分が調べた内容を分かりやすく伝えることの難しさを改めて実感した様子であった。また、そのためには、伝えたい内容の要旨をしっかりと把握し、相手反応を見ながら伝えなければならないことも体験的に感じ取った様子である。

発表時に気を付ける事柄について、本学級の事前意識調査を実施した結果は次の通りである。

項目	内容	はい	どちらかというとはい	どちらかというといいえ	いいえ
言いたいことの内容を伝えるためにどのように話しているか。	① 相手に聞こえる声ではっきり話す。	12%	64%	16%	8%
	② 分かって欲しいことをゆっくり、強調して話す。	4%	44%	36%	16%
	③ 初め・中・終わりに区切って話す。	24%	60%	12%	4%
	④ 身振り、手振り、図、指示棒などで指し示すなどをして話す。	4%	20%	44%	32%
	⑤ 相手のうなずきやメモ取りなど反応を見て話す。	8%	48%	28%	16%
	⑥ 相手に体を向け、目や顔をしっかりと見て話す。	4%	52%	32%	12%
相手の発表をどのように聞いているか。	ア 何が言いたいのか、話の中心は何なのかに気を付ける。	24%	40%	36%	0%
	イ 大事な事をメモしながら聞く。	16%	44%	40%	0%
	ウ うなずく、目や顔を見る等、反応しながら聞く。	24%	56%	12%	8%
	エ 自分との相違点や共通点を考えて聞く。	12%	48%	28%	12%
	オ 質問や感想意見が言えるように準備して聞く。	8%	16%	52%	24%

児童は、発表時に伝えたい内容の中心をしっかりと把握し、初め・中・終わりに区切ることで、話す内容の組み立てを意識して話すことができるようになってきた(項目①、③)。次は、更に相手の反応を伺いながら話したり、必要なことだけをしっかりと伝えたりすることにも心がけて(項目②、④、⑤、⑥)話せることが必要となる。スピーチ原稿や話型がなくても伝えたい内容を話したり、前もって話す内容を繰り返し練習しなくても大勢の前で落ち着いて話したりすることも必要である。発表の聞き方に関しては、相手に失礼のないよう態度面には気を付けて聞けるようになってきている(項目ウ)。相手の言いたいことや話の中身をしっかりと把握したり、自分の考えと比べたりして聞こうと意識して聞くことは(項目エ、オ)、考え方の交流を深め知識を広めていくうえでも大切な力である。これらのことから、相手に分かりやすく伝えるために、また、相手の伝えたいことをしっかりと捉えるために、相手を意識して話す・聞く力を付け、今後の学習や日常生活に生かしていけるよう学習を進めていきたい。

(2) 教材について～ 5 学習指導計画 (4年2組指導案 参照)

6 本時の指導 (14/16)

(1) ねらい

- ・相手に分かりやすく伝えることを考え、相手の反応や話し方に気を付けて話すことができる。
- ・発表内容の中心に気を付けて聞き、自分の感想をまとめることができる。
- ・様々な情報に関心を持ち、進んで発表会に参加することができる。

(2) 本時の展開

はかかわり合いの場合

過程	学 習 活 動	教師の働きかけ
つかむ	1 前時までの学習内容を想起する。 2 本時の学習内容を把握する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ポイントをまとめた紙板書、練習時の様子を提示。 ・発表会の進め方の確認をする。 ・A班は発表の店（話し手）、B班は客（聞き手）・用件を伝えるための話し方、聞き方の確認（掲示紙板書）
5分	相手に分かりやすく伝わるように発表しよう。	
かかわり合う	3 学習課題を解決する。 (1) ワークショップ形式の発表手順を確かめ、A B班に分かれ発表準備をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・紙板書で簡潔に掲示しておく。 ・グループの配置図・1回の発表時間・振り返り・発表会メニューカード 等
33分	<ul style="list-style-type: none"> ・小グループによる発表の形態。各自次のポイントに気を付けて交流する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><話し手></p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手を見て話す。（スピーチメモの利用） ・タイミングよく資料を見せる。 ・調べる内容、方法を伝えている。 ・テーマに沿った内容になっている。 ・はっきりと分かる速さ、声の大きさで話す。 <p><聞き手></p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表内容の中心に気を付けて聞く。 ・大事なこと、必要なことをメモする。 ・質問をしたり、感想を述べたりする。 ・発表の内容を発表カードに整理する。 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・発表会は児童の手で進められるよう、手順に迷いがないかどうかよく確認して進めたい。 ・A B班とも最大6つの小グループになるよう予め調整して実施する。B班は、少なくとも3つの小グループの発表が開けるように時間調整を図る。 ・発表の様子をVTRに取りながら、小グループごとに記録を取り、振り返り場面で活用したい。 ・聞き手と一緒に質疑をしながら助言するようにし、発表会の臨場感を保たせたい。 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>評価規準</p> <p>A：・相手の様子を見たり、反応を伺ったりして、相手に合った話し方を考えて話している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表が進むような態度を示しながら、内容の中心に気を付けてメモを取り聞いている。 <p>B：・相手を見て、相手に伝わる話し方に気を付けて話している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容の中心に気を付けて、メモを取りながら聞いている。 <p>(C児への手だて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表が難しい子には、事前に作成したスピーチメモを手だてにさせ、相手に資料を見せながら、落ち着いて話し、急いで話さないように助言する。 </div>
みとめ合う 7分	4 本時の学習をまとめる (1) 1回目の発表会を振り返る。 ・発表の仕方、聞き方の振り返りをする。 ・発表メニューカードへの記録を整理する。 (2) アドバイスカードに記入し、感想をまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価カードへの記入は簡潔に行えるよう、項目ごとに表を作成しておく。 ・アドバイスカードは付箋紙状の物にし、事後に発表者の資料やメモへ貼り付けて記録できるようにしておく。